

静岡焼津線舗装修繕工事における安全対策の工夫について

(社)静岡県土木施工管理技士会 島田地区
株式会社橋本組
現場代理人 境 祐介
技術者番号 00131960

1. はじめに

工事名 : 令和5年度 [第35-I8180-01号] (一)静岡焼津線舗装修繕工事(舗装打換え工)

発注者 : 静岡県島田土木事務所 工事第2課

工事場所 : 焼津市本町三丁目地内

工期 : 令和5年6月19日～令和5年11月17日

舗装面の傷や亀裂は、歩行者や自転車・バイクの転倒、自動車の事故などのリスクを引き起こす恐れがあります。舗装修繕工事は、すべての道路利用者が安全かつ効率的に移動するための交通基盤を提供する重要な役割を持っています。

施工平面図及び標準横断面図



2. 施工上に対する問題点と解決

2-1-①【コンビニエンスストアの出入りについての問題点】

施工区間内には、自動車での出入りの多いガソリンスタンドやコンビニエンスストア、飲食店などが多く営業しています。特にコンビニエンスストアは、夜間にも営業しており、工期を重視した夜間工事の施工計画では短時間とはいえ車道からの出入り口を塞いでしまい、営業損失を生じさせることが考えられます。

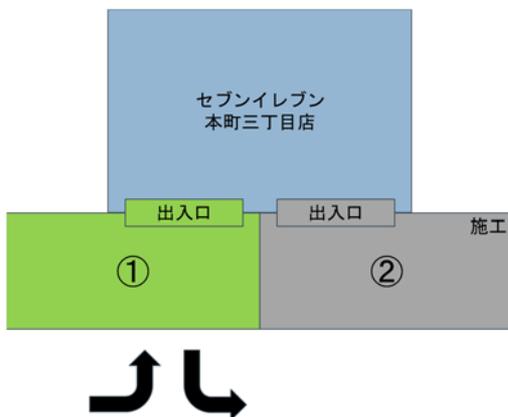
現地写真



2-1①解決策【施工方法の変更】

当初の施工計画では、夜間作業を前提に出入り口を封鎖して短時間での施工を考えていましたが、該当のコンビニエンスストアと綿密な打合せを行った結果、駐車場の中央で区切り施工を2回に分けることとしました。また、施工時には事前に店舗への案内看板を設置して交通誘導員を配置することで店舗への出入りを事故なくスムーズに行うことができました。施工計画の段階で当該店舗と綿密な打合せを行い、施工前での利用者や関係者への事前通知や説明、施工当日の出入り口での交通誘導員による事故防止の措置などを行うことが大変重要で工事による影響を最小限に抑えることが出来ました。

セブンイレブンの出入口を確保状況



2-1 ②【施工上空の無数の架空線の問題点】

市街地が施工現場の場合、現場上空には電力や通信などの多数の架空線が張り巡らされています。本工事では、そのような多数の架空線の下での工事となるため、架空線への接触や切断に繋がる事故が発生する恐れがあります。

2-1 ②解決策【防護カバーの設置】

施工箇所全区間での架空線の把握と所有者の調査を行いました。架空線の所有者とは、綿密な打合せを行うとともに接触の恐れがある全架空線に保護カバーを設置しました。また、架空線に接触しないよう建設機械の選定や施工手順を検討し、施工計画に記載するとともに施工箇所周辺には警告用ののぼり旗を設置しました。さらに作業員への教育と訓練を十分に行った結果、無事故で工事を完了できました。

防護カバー及びのぼり旗設置状況



2-1 ③【施工中の一般車両出入り口の問題点】

施工区間内には、アパートやマンション及び駐車場が隣接しています。住民や駐車場利用者の車両が安全に出入りするためには、舗装打換えの施工に伴って生じる路面との段差の解消が必要です。

2-1 ③解決策【スタイロフォームによる段差解消】

施工前には、周辺住民に工事を行うことを改めて周知をしていましたが、それでも100%いきわたらないのが現実です。施工中にどうしても出入りしたい人や遅くに帰宅する人など様々です。そのため、出入り口付近での段差を解消することが重要なため、段差解消を行いました。出入り口付近の段差を平坦化することが重要です。これにより、通行する車両が出入りできるようになります。段差を埋めるために、現場対策として軽量ですぐに移動のできるスタイロフォームを用

意し、迅速な対応をした結果、苦情もなくスムーズに施工を進めることができました。

スタイロフォーム設置状況



3. 苦勞した点

現場周辺には、バス停や24時間出入り可能な立体駐車場や貸倉庫がありました。事前にそれぞれの管理者と綿密な打合せを行い、また他の利用者が分かるように事前にお知らせや施工の予定を看板で設置したことで苦情なく現場を進めることができました。

お知らせ看板設置状況



4. 最後に

舗装工事を終えて、架空線の防護や段差の解消、そして近隣へのお知らせの配布が非常に重要であった。架空線の防護には、作業現場上空にある架線への注意が必要であり、建設機械が架線に触れる危険性を考慮しなければなりません。また、段差の解消も工程の一環であり、出入り口や通行路の安全を確保するために慎重な計画と作業が必要でした。さらに、周辺地域へのお知らせの配布も重要な作業でした。工事が行われる地域の住民や事業者に対して、工事の期間や影響、通行制限などの情報を適切に伝えることが重要でした。これには、案内板や警告標識の設置、チラシなど、さまざまな手段が必要でした。このような取り組みは、作業の効率性だけでなく、地域社会との円滑なコミュニケーションや安全を確保するためにも必要不可欠なことでした。地域の皆さんの協力や理解を得て、工事を安全かつ円滑に進めることができたことは大きな収穫でした。今後も、このような工事が行われる際には、より効果的な計画とコミュニケーション手段を模索し、地域社会との信頼関係を築きながら、安全かつ円滑な工事を実現していきたいと思っております。